

地域（磐田市）小規模事業者の動向

【平成28年度 第2/四半期（28.7～9月景況調査）】

平成28年10月

【調査の概要】

- 1、調査目的・・・磐田市商工会が小規模事業者の持続的発展を支援するために、当会から見た地域の景況並びに経営課題を把握する。
- 2、調査対象・・・当会の会員企業64社
業種別内訳は、地区内商工業者の構成比率を考慮して、建設業11社、製造業24社（輸送関連4社、その他20社）、小売業12社、飲食業3社、サービス業14社とした。
- 3、調査方法・・・当会の経営指導員による面接聴取によるアンケート調査
- 4、調査内容・・・対前年同月との比較
項目：売上高の増減、仕入単価の変動、利益の増減、資金繰りの変化、人材の充足度
- 5、分析方法・・・各項目について、プラス傾向（増加、上昇、好転、過剰）から、マイナス傾向（減少、低下、悪化、不足）の構成比を差し引いた数値（判断指数）・DIをもとに分析した。

（注）地域金融機関の景況調査（静岡県西部地域しんきん経済研究所）の調査結果も活用し地域の動向を把握することとした。

【製造業の状況】

<磐田地区製造業の景況感>

売上高、利益は大きな変化はなく、原材料費は下降ぎみであり、総じて横ばい圏内にある。



●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は4.2。前期比では4.2ポイント改善となった。

静岡県西部地域しんきん経済研究所（以下では、しんきん経済研究所と略称する）による調査では、製造業全体で－8.2であった。前期比では8.4ポイントの改善となっている。

●仕入単価の動向

仕入単価DI（上昇－下降）は、当会調査では製造業全体は12.5。前期比では16.1ポイント改善となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で3.8であった。前期比では4.9ポイントの悪化となっている。

●利益の動向

利益DI（増加－減少）は、当会調査では製造業全体は±0.0。前期比では±0.0。

しんきん経済研究所では製造業全体で－9.4であった。前期比では7.6ポイントの改善となっている。

●資金繰りの動向

資金繰りDI（好転－悪化）は、当会調査では製造業全体で±0.0。前期比では23.8%悪化となっている。

しんきん経済研究所では製造業全体で-10.1であった。前期比では-0.3%の悪化となっている。

●人手の動向

人手DI（過剰－不足）は、当会調査では製造業全体で4.2。前期比では4.2%の改善となっている。適度の人員が確保されていると判断される。

しんきん経済研究所では製造業全体で-16.9であった。前期比では8.5%の悪化となっている。

			28年6月	28年9月	前期比
売上額	増加——減少	当会の調査値	0.0	4.2	4.2
		しんきん経済研究所	-16.6	-8.2	8.4
仕入単価	上昇——下降	当会の調査値	28.6	12.5	16.1
		しんきん経済研究所	-1.1	3.8	4.9
利益	増加——減少	当会の調査値	0.0	0.0	0.0
		しんきん経済研究所	-17.0	-9.4	7.6
資金繰り	楽——苦しい	当会の調査値	23.8	0.0	-23.8
		しんきん経済研究所	-9.8	-10.1	-0.3
人手	過剰——不足	当会の調査値	0.0	4.2	4.2
		しんきん経済研究所	-8.4	-16.9	-8.5

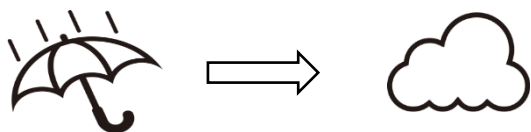
●調査員コメント

- ・8月までは前年比で増加、9月は前年並みの受注。円高の影響か、海外向は減少。（車両）
- ・展示会への出展や新製品開発により売上高の拡大に取り組んでいる。（機械）
- ・当社の強みは、技術を持った再雇用者による確かな仕事である。（機械）
- ・丁寧な仕事で長年の信頼を得ている。（機械）
- ・大手企業が取り組まないニッチ業務を請け負うことで、工賃アップを図っている。（織物）
- ・高価格帯の糸の織布が増えている。（織物）

【建設業の状況】

<磐田地区建設業の景況感>

売上高が増加。材料価格の変動はなく、利益が増加という状況にあり、好転している。



●売上額の動向

売上額DI（増加－減少）は、当会調査では9.1、前期比では59.1%の大幅な改善となって

いる。

しんきん経済研究所では－8.1であった。前期比では21.6％の改善となっている。
いずれの調査でも売上高の増加感が強い。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇—下降）は、当会調査では18.2、前期比では1.5％の悪化となっている。
しんきん経済研究所では21.0であった。前期比では2.2％の悪化となっている。
いずれの調査でも仕入価格は大きな変動がない。

●利益の動向

利益D I（増加—減少）は、当会調査では9.1、前期比では42.4％の改善となっている。
しんきん経済研究所では－22.6であった。前期比では2.3％の小幅な悪化となっている。
静岡県西部地域全般では横ばい、磐田地区の建設業は好転している模様。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転—悪化）は、当会調査では－9.1、前期比では7.6％の改善となっている。
しんきん経済研究所では－4.8であった。前期比では12.4％の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰—不足）は、当会調査では±0.0、前期比では8.3％の改善となっている。
しんきん経済研究所では－19.0であった。前期比では5.2％の悪化となっている。
静岡県西部地域全般では人材が少し不足している。

			28年6月	28年9月	前期比
売上額	増加—減少	当会の調査値	－50.0	9.1	59.1
		しんきん経済研究所	－29.7	－8.1	21.6
仕入単価	上昇—下降	当会の調査値	16.7	18.2	1.5
		しんきん経済研究所	18.8	21.0	2.2
利 益	増加—減少	当会の調査値	－33.3	9.1	42.4
		しんきん経済研究所	－20.3	－22.6	－2.3
資金繰り	楽—苦しい	当会の調査値	－16.7	－9.1	7.6
		しんきん経済研究所	－17.2	－4.8	12.4
人 手	過剰—不足	当会の調査値	－8.3	0.0	8.3
		しんきん経済研究所	－19.0	－24.2	－5.2

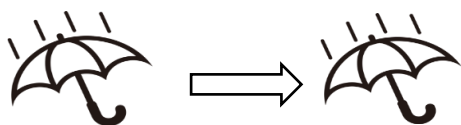
●調査員コメント

- ・仕事量はあるが採算面では厳しい内容である。
- ・丁寧な仕事をして、既存客から新規客を紹介して頂いている。
- ・従業員の資質向上と人員数を確保して売上拡大を図りたい。
- ・若い技術者を採用したい。

【小売業の状況】

＜磐田地区小売業の景況感＞

売上額D I（増加－減少）、および利益D I（増加－減少）は前期と同様低水準にあり、引き続き厳しい景況にある。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では－58.3、前期比では8.3㊦の悪化となっている。しんきん経済研究所では－18.9であった。前期比では5.6㊦の改善となっている。売上高が減少と捉えている会社が多い。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では－8.3、前期比では38.3㊦の改善となっている。しんきん経済研究所では1.9であった。前期比では3.8㊦の改善となっている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では－50.0、前期比では±0.0であり、前期に引き続き低水準が続いている。しんきん経済研究所では－24.5であった。前期比では5.7㊦の改善となっている。いずれの調査でも利益D I（増加－減少）は低く、利益の減少感は強い。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では－8.3、前期比では11.7㊦の改善となっている。しんきん経済研究所では－19.2であった。前期比では4.1㊦の悪化となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では－8.3、前期比では1.7㊦の改善となっている。しんきん経済研究所では－17.0であった。前期比では3.8㊦の悪化となっている。少し人材の不足感がある。

			28年6月	28年9月	前期比
売上額	増加——減少	当会の調査値	－50.0	－58.3	－8.3
		しんきん経済研究所	－24.5	－18.9	5.6
仕入単価	上昇——下降	当会の調査値	30.0	－8.3	－38.3
		しんきん経済研究所	5.7	1.9	－3.8
利 益	増加——減少	当会の調査値	－50.0	－50.0	0.0
		しんきん経済研究所	－30.2	－24.5	5.7
資金繰り	楽——苦しい	当会の調査値	－20.0	－8.3	11.7
		しんきん経済研究所	－15.1	－19.2	－4.1

人 手	過剰——不足	当会の調査値	-10.0	-8.3	1.7
		しんきん経済研究所	-13.2	-17.0	-3.8

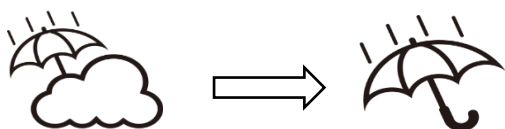
●調査員コメント

- ・ポスティングにより売上拡大に取り組んでいる。
- ・新メニュースタート、ポップ広告により売上拡大に取り組んでいる。
- ・照明をLED化して経費削減。
- ・消耗品のムダの削減や残業の削減をしてコストダウンをしている。

【飲食業＋サービス業の状況】

<磐田地区飲食業＋サービス業の景況感>

売上額D I（増加－減少）、および利益D I（増加－減少）は前期より更に低水準にあり、厳しさが増している。



●売上額の動向

売上額D I（増加－減少）は、当会調査では-41.2、前期比では7.9%の悪化となっている。しんきん経済研究所では-27.3であった。前期比では27.3%の悪化となっている。当会としんきん経済研究所の調査は共に売上減少感が強い。

●仕入単価の動向

仕入単価D I（上昇－下降）は、当会調査では23.5、前期比では23.5%の悪化となっている。しんきん経済研究所では9.1であった。前期比では15.9%の改善となっている。

●利益の動向

利益D I（増加－減少）は、当会調査では-58.8、前期比では25.5%の悪化となっている。しんきん経済研究所では-27.3であった。前期比では19.0%の悪化となっている。いずれの調査でも前期よりも更に、利益の減少感は強い。

●資金繰りの動向

資金繰りD I（好転－悪化）は、当会調査では-23.5、前期比では16.8%の悪化となっている。しんきん経済研究所では±0.0であった。前期比では16.7%の改善となっている。

●人手の動向

人手D I（過剰－不足）は、当会調査では-5.9、前期比では7.4%の改善となっている。しんきん経済研究所では-18.2であった。前期比では15.1%の改善となっているが少し人材の不足感がある。

			28年6月	28年9月	前期比
売上額	増加——減少	当会の調査値	-33.3	-41.2	-7.9
		しんきん経済研究所	0.0	-27.3	-27.3
仕入単価	上昇——下降	当会の調査値	0.0	23.5	23.5
		しんきん経済研究所	25.0	9.1	-15.9
利益	増加——減少	当会の調査値	-33.3	-58.8	-25.5
		しんきん経済研究所	-8.3	-27.3	-19.0
資金繰り	楽——苦しい	当会の調査値	-6.7	-23.5	-16.8
		しんきん経済研究所	-16.7	0.0	16.7
人手	過剰——不足	当会の調査値	-13.3	-5.9	7.4
		しんきん経済研究所	-33.3	-18.2	15.1

●調査員コメント

- ・ネット活用して販売やPRをすすめている。
- ・顧客へ定期的にダイレクトメールを送付。人脈（友人、知人）による新規客を開拓中。
- ・パンフレットを改良したところ売上増になった。
- ・従業員の新規雇用に向けて準備中。
- ・福利厚生を強化し従業員のやる気を高めている。
- ・従業員の技能資格取得をすすめ、新規顧客の獲得を目指す。
- ・商工会には補助金・助成金などの情報提供を期待している。